

高殿のまちあるきで発見!

60余年前のガード?

平成21年6月18日(木)午後2時から高殿の「まちあるき」を行いました。

予想に反して暑い日でしたが、地下鉄谷町線関目高殿駅近くのコンビニエンスストア前に集合。2時から日傘、手拭、お茶を下げ、京街道・京阪電車地上線を皮切りに、

国道一号線では戦前の建物を見ながら、途中学習センターへ寄り休憩しました。ほっとしたところで、また歩き

出して、今度は工場跡地のスーパー・看護学校・マンション、七曲から大宮神社への参道、旭公園、新制旭第一中学校、城北川遊歩道を通って、旭区民センターへ4時前到着しました。

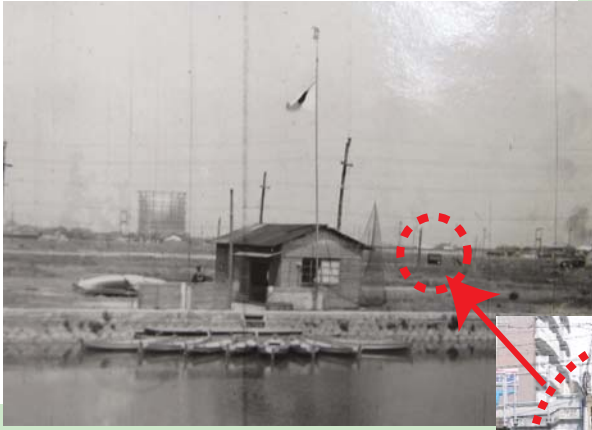


■京街道付近
(平成21年6月18日の「まちあるき」にて)

このまちあるきで思い出したのが、スタート地点より京街道を歩き始めてまもなく、京阪電車高架線をすぎ、新森一丁目へ寄り道した場所でのことです。以前、私の写真で見た(※1より)京阪電車の架線や、ガードだろうと思われるものを見つけることができました。



■旭公園でのスナップ(平成21年6月18日の「まちあるき」にて)



(※1) ■昭和10年頃
貸しポート場所から見たガード辺り
(写真:豊田)



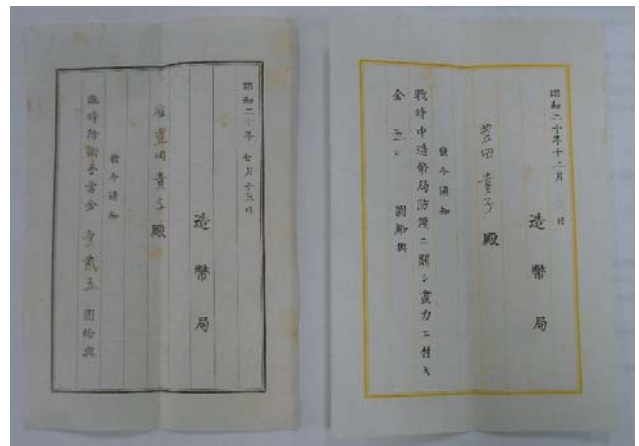
空襲警報が出ると隠れたガード…
もっと高いと思ったけど？



■京阪電車高架
(平成21年6月18日の「まちあるき」にて)

言われてみれば、そのようにも思えますが、現在のその場所は町の真ん中で以前の記憶とはかけ離れていました。ガードは記憶に反しとても低く何だか不思議な気がしました。
昔、空襲警報が出ると身を隠していたガードはもっと高かったなと。
或いはまた、別のガードだったかも知れませんが、当時の京阪線にあったそして今もそのまま残っているこれらの幾つかのガードは当時の幾人かの命を守ってくれたのです。
昭和20年私は新森小路の家から野田橋の造幣局へ通勤していました。6月7日の大阪大空襲のことは、千人塚の記事でも触れましたが、その頃は空襲警報が出ると電車が止まってしまい、歩いて職場へ行くのが常のことでした。
駅まで来て止まっていればそのまま線路伝いに歩く。途中で電車が止まると客は電車から降りて、高架下の道に降り、近くのガードに身を隠す。
線路の両側には隠れるような建物はなかったように記憶しています。
警報が解除になれば、電車が動くまではまた歩き続けて職場へ。こんなことの繰り返しでした。

当時支給された「臨時防衛手当金 壱貳五？
(20.7.15)」、
「戦時中造幣局防護に関し尽力に付き 金50円
給与(20.12.3 最後の日付は不確実)」。
二枚の発令通知が見つかったので、現物写真を
付し回想を終えたいと思います。〈豊田貴子〉



■当時支給された手当金(資料:豊田)